



読書のまち・かわさき 通信 NO53

2011
7.13

読書のまち・かわさき事業推進委員会 会長
川崎市教育委員会 学校教育部 指導課長

11月6日・読書の日をつどい

ねずみくんシリーズのなかえよしを
先生による講演会が実現♪



日々の読み聞かせのレパートリー
に、ほくを加えてくださいね♪

ねずみくんが見つめてきた大切なこと

ねずみくんシリーズが、1974年に『ねずみくんのチョコ』(ポプラ社)で産声をあげてから、2011年5月に発売された『ごちそうだよ!ねずみくん』(ポプラ社)で、28作を数えることになりました。40年近くもの間、移り行く時代を、ねずみくんという「定点」から見つめ続けてきたのではないかと思います。時代や世代を超えて大切にしなければいけないことがら、作品の中にさりげなく映し出されていて、それを読者が何となくだけれどわかっているからこそ、このようなロングセラーのシリーズが、生命力を宿し続けるのではないのでしょうか。



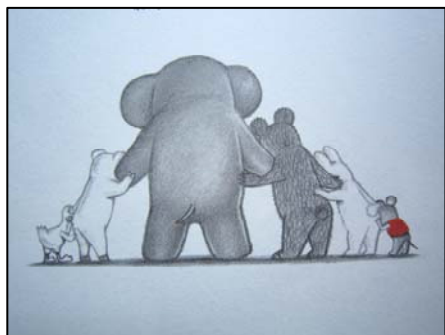
シリーズ23作目に『ねずみくんとシーソー』(ポプラ社)という作品があります。最初、何気なくはじまったそうさんとねずみくんのシーソー遊びでした。勝敗でいうとねずみくんはとてもそうさんに勝てないわけです。そうさんはそうさんで、軽い気持ちで別に、ねずみくんをとっちめようなんて思っていません。だからこそ、ねずみくんが「ほくのともだち」を呼び出してからの物語には、はらはらして見守る読者がいるのです。次々に動物たちが集まってきます。このシリーズで馴染みのある顔ぶれたちです。そして、そうさんの次の言葉が発せられます。



“ともだちがもういないだって!ほくもともだちなのに”

感嘆符のあとの文字が小さいことに気づきました。本当に大切なことは、思っ
ていてもなかなかはっきりと形にしづらいのですよね。すごくわかります、この気持ち。照れ
くさいし、言えませんよね。そうさんがシーソーの反対側に自分の鼻をちょいちょい乗
せて、「ねえ、ほくもともだちだよ～」とシーソーを動き出させる姿には、心がぐっと
引き寄せられるような思いに包まれました。あれだけ個々に個性をもったキャラクタ
ーたちが、ひとりのために、だれかのために、本気で夢中になって行動し、結果として連
帯が強まっていく姿には、学校、会社、地域のいたるところで失いつつある個と集団の
かわりについての示唆に富んでいます。そうさんや動物たちの表情や動きの機微に注
目して読み直すと、セリフにはないけれど、ひとりひとりの心情が伝わってくるようで、
これが絵本を楽しむ醍醐味だと思いました。19作目の『ねずみくんのクリスマス』(ポ

プラ社)では、心を傷つけてしまった相手の友達(ねみちゃん)を励まそうと、動物たちが、連帯して、巨大なクリスマスツリーをつくります。その直前に、仲間同士で“円陣”を組む場面があります。ひとりのために、他のあらゆるひとり一人の存在が、生きて働くのです。そんな場面や絵、言葉の数々が、読み手の心を強い磁力で惹きつけます。ロングセラーの秘密はきっと、このあたりにありそうです。もちろん上野紀子先生が生み出す絵のもつ磁力もすごいのです。



なかえよしを先生が、下記のように、11月6日に溝の口駅に隣接した高津市民館に来館します。どうぞたくさんの方に足を運んでいただけましたら嬉しいです。

◇かわさき読書の日のつどい 11月6日 高津市民館大ホール

- ・第Ⅰ部 読書活動表彰式 11:00~
- ・第Ⅱ部 なかえよしを先生講演とこどもたちとの交流 13:45~

♪書籍販売やサイン会も予定しています。参加についての事前申し込みは不要です。

○担当：教育委員会学校教育部 松田哲世 TEL200-3243 渡邊信二 935-3795

フロンターレと本を読もう



上の写真は、7月7日に麻生区の岡上小学校で行われた選手による読書会の様子です。すでに、6月29日には、高津区の高津小学校と多摩区の東生田小学校でも実施されました。9月には、川崎区の臨港中学校でも実施される予定です。棗 佑喜(なつめ・ゆうき)選手が、岡上小学校の図書室に一步足を踏み入ると、小学生の歓声と笑顔が室内にあふれました。3年生、5年生とのそれぞれ一時間ずつの授業のはじまりです。棗選手は、『トップアスリートの勝つコトバ』(根本真吾 秀和システム)、『いい言葉はいい人生をつくる』(斎藤茂太 成美文庫)の二冊を携えて、来訪しました。「大学生の時に、サッカーのことで、壁にぶつかりどうしていいか迷いました。その時に、人生を変える言葉に出逢い、このような本を読むようになったのです」。

5年生との交流では、児童の皆さんひとり一人が、棗選手の本を事前に読み、自分の中に響いた言葉を引用して、授業に臨んでいました。5年生の児童が自分で引用した言葉について棗選手に語りかけ、感想を促す等、本や言葉を通じて、選手と対話的な交流をする姿が光っていました。担当の先生の読書活動に寄せる思いと、その思いに即時的に応答し、対話を成立させていた棗選手と児童の皆さんに心から拍手を贈りたくなるそんなひとときでした。児童との別れ際に棗選手からこんな言葉も贈られました。

“どんどん失敗してください。挑戦することが大切ですから”